

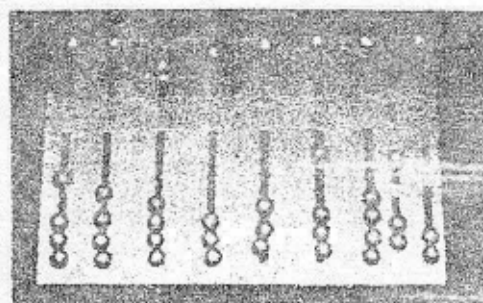
大昔の計算用具

そろばんは、室町時代の終わりころに中国から伝わったものです。このそろばんのルーツをたどると太古の素朴な計算法に行きつきます。

チグリス川とユーフラテス川にはさまれたメソポタミア平原で、紀元前4,000~3,000年前のものと思われる粘土板が発見されました。それに書かれた文字などから、当時は地面に線を引き、小石を置いて計算したのではないだろうかと推定されています。その計算に用いられた小石は、カルワリ(Calculi)と呼ばれています。それは、"計算する"という英語のカルキュレート(Calculate)の語源だとされています。

やがて、この計算法がギリシアに伝わり、線を引いた計算のための専用の板が用いられるようになりました。この板は、「サラミスのアバカス」と呼ばれ、アテネの博物館に保存されています。これは、現存する、世界でいちばん古い計算用具です。





ローマのアバカス

ローマ時代になると、アバカスは持ち運びに便利のように小型化されました。このアバカスは、今日用いられるそろばんにたいへん似た形となっています。おそらく、このアバカスが

2世紀頃にシルクロードを通じて中国に伝えられ、中国のそろばんに改良されたのだろつとされています。(H.K)

□ □ □ □ □ ————— □ □ □ □ □
□ 特別展「計算機の歴史—アバカスからコンピュータまで—」

科学文化センターでは、この特別展を7月26日(火)～11月30日(水)の期間開催します。古代の計算用具、アバカスからコンピュータまでの計算機の歴史のようすを実物や模型など約130点で紹介しつす。

□ — 特別展記念講演会 — □

タイトル： 万葉の^{たね}人たちの計算用具
講師： 日本アイ・ビー・エム
東京理科大学講師 内山 昭氏
日時： 8月21日(日) 13:30～15:00
場所： 科学文化センター・1階ホール(入場無料)

□ — 科学映画会 — □

タイトル： コンピュータ
日時： 8月14日(日) ①11:30～12:00 ②15:00～15:30
場所： 科学文化センター・1階ホール(入場無料)



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号(〒930-11)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)

昭和58年8月/日発行